レッスン：22"A"

テーマ：善の意味その２

GOOD/22A/AEN/DOC

私の兄弟・姉妹たち、

スピリット、光、火の子供たちよ。私達は常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。

毎日、私達はテレビやマスメディアを通じて、善あるいは悪の行為、寛容と不寛容の行為、善意による行為と攻撃的行為、親切な行為と利己的行為、戦争という行為および平和への絶望的努力などのニュースを浴びています。これら全ては私達の周囲で起きており、絶えず私達の存在そのものに影響を及ぼし、私達が生きている条件そのものを創りだしています。

　　全ては善あるいは悪というレッテルを貼られ、あるいは一層悪いことには、無関心という状態もあります。それはある意味では、そう表現することが可能ならば、悪よりも悪いのです。なぜなら、それはあなたが生きているまさにその環境において、あなたの周囲で生じていることに影響を受けていないか、あるいは気づいていないことを意味しているからです。特定の状態に気づいていないということは、その問題が存在していることさえ知らないことを意味し、従って状況を正しいものにしようという気持さえないのです。

人は自分が絶え間ない戦場の中にいることを感じています。そこでは、一方では善を代表する陣営があり、反対側には悪を代表する陣営があり、良い方向へ変化させるために助力を提供するのは取るに足りないことのように感じられます。これら二つの陣営に関するパラドックスは、双方とも悪、攻撃、不寛容、憎しみが存在するのは相手が悪いからだと主張することです。悪の傘の下にある状況を生みだし、投射しているのは相手なのです。

　　なぜ、そのように考えるのでしょうか？善悪の物差し、判断の基準は存在しないのでしょうか？善悪の問題は余りにも混乱しやすいので、そうと知らずに悪の側に立ってしまうことがあるのでしょうか？

善悪の問題は人間の成長にとって極めて重要なので、どのようにして善あるいは悪が生じるのかという問題を考察する必要があります。

　　それは特定の条件のもとで何処からともなく滲み出るものなのでしょうか？それは出来事が一定の仕方で結びつくと、自動的に現れるのでしょうか？悪の行為を放射しているのに、善のために働いているのだと考えることは可能でしょうか？全ての側面を考察するために、歯ブラシのようなものを携えて、実際的なアプローチの仕方でこの問題を探求する時が来ています。私達は目をしっかりと見開いて、存在するワナに十分に注意を注ぎ、理解したことを素直に受け入れる受容性をもって、善と悪の意味を考察しましょう。再び生煮えの理論で終わってしまうことのないように、徹底的に探求する覚悟が必要です。しかしまた、少なくとも現在のところは、この手の届かない理論を多くの人々のようにカーペットの下に押し込んだままにしないように、このジレンマを明確にする必要があります。

悪というものは存在しない、と何回も言われています。しかし実際に存在しているのは、欲望的想念を生みだす能力を具えた人間が時間・空間の中で創造した邪悪な想念なのです。

しかし、いかにしてそれが可能となるのでしょうか？その悪のパワーを同胞の人間に対して用いる能力を人間に与えたのは何なのでしょうか？なぜ人間は、神でさえもそれを克服したり、押さえ付けられないと思えるようなパワーを持つ必要があるのでしょうか？

　「考える」ということは人間がノエティカルなイメージを作り上げる能力であり、それは実存の世界に属します。従って、それは時間・空間的環境から影響を受け、Lifeの現象の現れ、対極の世界、対立する二元性の世界から影響を受けます。つまり、イリュージョン、錯覚の世界に属すと言えるでしょう。

Page2

ですから、私達は悪というものは存在しないという前提に到達しました。実際に存在するのは、人間が創造した悪い想念であり、それは人間の無知の結果であり、**人間がLifeの現象という時間・空間の中に閉じ込められた結果なのです。**

実際、神が私達人間に善あるいは悪の行為をするよう強制したり、私達が絶えず戦場のごとき環境にいるように感じさせるわけではありません。それはまさに無知による私達自身の現れの産物なのです。ある出来事を善あるいは悪と考えるのは、時間・空間的意味の中での私達の意識のセルフ・エピグノーシスの動きによります。従って、同じ出来事あるいは行為が各人の理解のフィルターを通じて理解されるのですが、各人のフィルターが異なっているので、同じ状況が色々に異なって受け取られるのです。現在でも多くの例を挙げることができます。例えば、昔は私達が良い意味があると見なし、その結果、ある一定の仕方で行動し、当時の常識ではその行為を良いものと考えていました。しかし、現在になって昔の行動を振り返ってみると、現在の行動基準では良いと言えないものもあります。その理由は、私達がそうとは知らずにより高い気づきのレベルから見るようになり、過去の行為をもはや許容できないと感じるからです。

ですから、意味は絶えず変化しています。このような変化は、国の方針、学校や大学の方針、産業界などあらゆる分野でみられます。より大きな組織になるとより多くの人々に影響を及ぼすので、当然より広範な結果をもたらします。しかし、大きな組織も個人から成り立っており、結局のところ、善あるいは悪に属する行為の種となる想念を蒔くのは個人である、という事実は変わりません。このことは、個人がその環境に及ぼすことのできる効果に関して非常に重要な意味があります。私達はしばしば、不正義が行なわれていてもそれに対して行動を起こしません。あるいは、ある表現、方針に心から賛成していなくても、黙っていることがあります。それは、誰も自分の言うことに耳を傾けないだろうと思ったり、そんなことをしても時間の無駄だと考えるからです。何百、何千という人々が全く同じように考えているなら、もし一人の人が行動を起こせば残りの人々はそれに参加する可能性があります。結論は、時間の無駄だと考えて行動しないことを選んではならない、ということです。むしろ、行動すべきです。もし、それが成果をもたらすことができなければ、それは状況がまだ熟していなかったのだと考えてください。しかし、何回も繰り返しトライするべきです。

ですから、私達は全体として善と悪の意味は絶えず変化するということを認めます。しかし、実際に何が変化しているのでしょうか？善の意味が、それとも悪の意味が変化しているのでしょうか？悪とみなされるものは常に悪として留まるかもしれませんが、善の意味も常に同じであると言えるでしょうか？これまでの中で、そうではないと結論づけました。善の意味は常に変化しています。「変化している」という言葉はここではとても意味があります。なぜなら、状況について絶対的な判断をするのを躊躇させるからです。もしあなたが人々に彼らが善を現しているかどうか尋ねるなら、彼らはそうだと答えるでしょう。しかし、彼らが表現している善は、他の人々の庭では悪と見なされるかもしれません。

それはあたかも梯子の段を昇るかのようです。しかし、ここで昇るのは成長、進化の梯子です。進化するにつれて、それまで許されていたことが、より高い気づきのレベルから見てもはや許されなくなります。このようなことは一度だけ起こるのではなく、梯子を上昇していくにつれて継続的に生じるようになります。もし私達がこれについて熟考すれば、そうでなければならないことに気づくでしょう。なぜなら、さもなければ私達は自分たちの意識を高めることができず、いつも同じレベルに留まることになってしまいます。

ですから、Lifeの現象において、実存の世界において、善の意味は絶えず変化しています。

絶対善についても同じことが言えるでしょうか？絶対善が変化するということがありえるでしょうか？答えはノーです。なぜなら、

絶対善は意味ではないからです。絶対善は私達のインナーセルフから現れています。それは私達の聖なる特質の一つからの延長であり、それゆえ意味を越えており、それは私達のインナーセルフ、絶対善からの現れであり、時間・空間の気づきによる理解を越えています。それは絶対愛としての神の本質の特質であるキリスト意識の現れです。

Page3

私達の現れ全てにおいて、私達が実際に自分達の理解のフィルターを通じて常に使っているのは主なる神なのです。まさに最初の転生の時以来、私達は自分自身を現わすために、Lifeの現象の意味を通じて自分達を現わすために、主なる神を使っているのです。ただ一つ、唯一の絶対存在あるいは神が存在し、私達が神の愛を広げるために神を使おうとも、あるいは他人を十字架にかけるために神を使おうとも、私達は同じ唯一の存在を使っているのです。

私達が最後の手段として十字架にかけているのは神であり、私達が使っているのは常に神なのです。なぜなら、神は一つだからです。神の愛を広めるために一方の神を使い、他人を十字架にかけるために他方の神を使うということはありえません。唯一の神のみが存在します。時々、人間が誤った考えによって、勿論そうと知らずに、二つの対立する神が存在するかのように振る舞っているのを見ることがあります。特に国と国が神の名前のもとに争い、どちらも神を通じて自分達の正義、自分達の要求を主張しているのが見られます。このような類の神は二元対極の世界にのみ存在し、自分達を守るために現象上の正義を求めて強い力を得たいという願望に基づく、人間の創造物です。悪人と見なされようと善人と見なされようと、神は全ての人間を愛する、ということを理解できないのは人間だけです。戦場で神を自分達の陣営に奉ろうとするのは人間です。

私達の意識はあまりにも狭いので、神が全ての人間を愛していることを理解できず、神を自分達の味方にさせようとするのです。

人間は、自分達が不変の法則にアンバランスをもたらすことによって環境や状況を創りだした唯一の創造人であることを忘れているように見えます。

もし神がその愛で全ての人間を抱くなら、私達人間も周囲の人間全てを愛することを拒否できない、ということを理解できないでいるのです。

さて、私達はどのようにしてそれを達成するかというジレンマに突き当たりました。周囲の人全てを愛すると口で言うのは簡単ですが、極端に不公平な人間、悪人、利己的な人々等はどうなるのでしょうか？全ての人間は犠牲者となり、同胞の人間の不公正な行為から被害を被ったことがあると思います。

理論的にも、そのような不公正な行為に対して寛容であるのは非常に難しいことです。もし正しい思考を経て行くなら、多くの観察・考察を通じて、次第に人間を受け入れるようになるでしょう。

正しい思考には、「相手は無知から行動していたのであり、その人の真の本質は愛であって、自分は相手の行為それ自体と戦っても、相手の人間は愛する」というアプローチが含まれます。しかし、これは正しい思考について理論的に考察する第一歩にすぎません。

このようなテストにパスしたかどうかは、実生活において、特にあなた自身の利益およびあなたの愛する人の利益が危険にさらされるような状況で、それを実行できるようになるまではわかりません。もし真に他人の身になって考える立場にないのであれば、正しい思考についてあまり自信を持ち過ぎないようにすることはとても重要です。

　　勿論、最も重要なレッスンは、そのような状況に対処することを通じてもたらされるでしょう。それは最終的に進化、成長の梯子を昇る助けとなります。

私達の認識が広ければ広いほど、私達を通過する光もそれだけ大きくなります。認識が広がれば、私達を通過する光がそれだけ大きくなり、道を照らす光も強力になります。

真理の探究者として私達には、より良いセルフ（自己）を現す以外にどのような目的があるでしょうか？

私達のインナーセルフとは何でしょうか？それが純粋な愛でないとしたら何なのでしょうか？

ですから、より良いセルフを表現すると語る時、それはより多くの光をもたらすことを意味し、それはより多くの愛を通じて現されるのです。

このようにして私達は、相対的リアリティーの様々なステップにおいてより高い位置に到達することによって、成長の梯子を昇ることができるのです。それはダンスであり、ダンサーは次第に無知という重い上着を投げ捨てます。ダンサーの身体が軽くなるにつれて、高い所に到達して光を垣間見ることができるようになります。無知を投げ捨てることによってのみ、人間は自分自身を解放し、光を使い、見る能力を得ることが可能となるのです。人間はLifeそれ自体ではなく、Lifeの現象の中に生きています。人間がテオーシス（＊数多くの転生を経た後に到達する成長の最終段階。神との再合一）を通じて多様性、神のアウタルキー（＊自足状態）の中に戻る時、絶対リアリティーに到達できるでしょう。

Page4

あらゆる困難、苦しみは最終的には至福、幸福へとつながることを理解できるようになる時、このことは人間に対する祝福の一つとなるでしょう。

最初は個人的レベルで得るでしょう。この現在のパーソナリティーはそれを通じて自分自身が表現される寺院であって、自分が維持すべき寺院ではないことを感じ始めることでしょう。

現在は善が欠如していても、次第に姿を現すようになるでしょう。これに関しては全く疑いの余地はありません。善は絶対の特質の本質であり、それゆえそれは永遠です。私達は主なる父のイメージによって創られているので、私達もまたそれを受け継いでいます。

しかし、現在のパーソナリティーが物質界に取り込まれてしまっているので、一時的にそれが隠れているのです。しかし、物質的なものへの執着は、それが永遠的価値を持たないLifeの現象界の一部であるので、次第に消えていくことでしょう。

人類が実存の世界で体験している経験は、現在のパーソナリティーを教育するための手段であると理解すべきです。そこでは、無知を洗い流し、それによって低次のものへの魅力を越えてより高い価値に目を向けることを学ぶのです。純粋に個人的なものへの価値を越えて多くの人々を包含する価値へと目を向け、民族の国境を越えて世界全体へと目を向けるのです。善人であれ悪人であれ、地球上の全ての人間を善で包むのです。これは、スタートとして、Lifeの現象界における私達の舞台と場面を体験する機会のためなのです。

　　宇宙は神の絶対愛によって築かれ、維持されているので、悪という属性はどこにも存在しません。

従って、悪という低次のものを除去して洗い流すという探求は、私達自身のいまだ不純なハートにおいて行なわれる必要があります。私達自身の理解レベルは、ハイヤーセルフから遊離し、神の意志を全く表現しない仕方で自分の自由意志を行使しています。

息子は父と同じサブスタンスで創られており、神の意志を表現しているべきなのです。もしそうでないとしたら、それは時間・空間的セルフが誤って物質的なものに魅せられてしまい、インナーセルフの聖なる源を忘れてしまったからなのです。

恐らく、人間は自分の自由意志を用いてしばらくの間は悪と戯れるように、あらかじめ定められているのかもしれません。しかし、それは一時的なものであり、最終的には梯子を発見して、その梯子の数多くの段を昇っていき、自己実現、インナーセルフおよび魂のセルフ・エピグノーシスとの同化へと至るように定められているのです。私達自身が絶対リアリティーになるまでは、私達は絶対リアリティーに達することは不可能であり、それゆえ、存在（Beingness)の段階においても、さらに上に上昇する動きがあるのです。

　　いかにしてこの絶対リアリティーになるのか、そして進化の梯子に向かう第一歩をどのように踏み出すのか、という質問に戻りましょう。前に、

**私達の認識が大きいほど、私達を通過する光も大きくなると述べました。**

ですから、私達が今やるべきことは私達の認識を取り扱うことであるようです。

私達の認識を取り扱うためには、現在のパーソナリティーを取り扱い、

**現在のパーソナリティーを成長させてインナーセルフと同化するための方法を見出す必要があります。**

現在のパーソナリティーを成長させるためには、それが現わされている手段について考察しなければなりません。その現れの手段とは、現在のパーソナリティーの三つの体です。

私達には肉体がありますが、勿論それが現在のパーソナリティー全体ではありません。現在のパーソナリティーには考え、行動する仕方があり、それゆえ私達には行為のセンター、そして感情・気持のセンターであるサイキカル体があるのです。私達にはさらに思考のセンターであるもう一つの体があり、それはノエティカル体と呼ばれています。ですから、現在のパーソナリティーとして私達には三つの体があり、

**より高い気づきに到達するためには、これら三つの体を取り扱う必要があるのです。**

繰り返しになりますが、

これら三つの体はインナーセルフ、魂のエピグノーシス、永遠のパーソナリティーによって現在のパーソナリティーに与えられたものであり、それらは肉体との関係ではハートのセンターに根付いている、あるいは基盤をおいています。それらは不定形な体であり、特定の形を持っていないので、それらを肉体の形に似せて形づくる必要があります。

それらの不定形な体は肉体、サイキカル体、あるいはノエティカル体とは呼ばれず、それぞれ永遠のアトムと呼ばれています。

三つの永遠のアトムは、一つは肉体の、一つはサイキカル体の、もう一つはノエティカル体のためです。

Page5

無知の中に生きている人間にとって、この３次元での思考、行動、表現のセンターはハートのセンターに根ざしています。真理の探究者として、目的はこられの不定形な諸体に形を与えることです。無知に生きている全ての人間はここから、ハートのこのポイントから考え、行動します。全ての想念、思考には気持、感情が込められています。そのために、エレメンタルの創造において、それらが想念的欲望ではなく、欲望的想念という特徴を帯びているのです。

なぜなら、思考のセンターでさえこのポイントにあるからです。このハートのセンターは欲望のセンター、サイキカル体のセンターであり、そうあるべきです。それはノエティカル体のセンターではありません。しかし、しばらくの間、つまり人間が無知の中で行動している間は、ノエティカル体は頭ではなくハートに根付いているのです。学びを通じて、知識を通じて、自己省察を通じて、自己分析を通じて、エクササイズを通じて、与え・提供するという実習を通じて、私達はこれらの体に形を与え始めるのです。それらに体を与えることによって、不定形な体のセンターは肉体上の本来のポジションに移動し、そこに属するようになります。

　　永遠のアトムとしてのノエティカル体は頭のセンターに移動し、肉体の永遠のアトムは太陽神経叢に対応するそれ自身のセンターに移動します。そうなるためには私達が多くのことを成し遂げる必要がありますが、

その結果、自己実現に到達したバランスの取れたパーソナリティーが確立されます。私達がこれらの体を肉体とは別の体として使用し、エクソマトーシス（＊意識を保ったまま幽体離脱すること）ができるようになるためには、これらの体、これらの現れの領域を支配、マスターする必要があります。

　　真理の探究者、真剣に真理を求める探求者にとって、

これこそが光に奉仕、神に奉仕できるようになるための唯一の方法、唯一の正しい適切な方法です。

さて、不定形な体にいかにして形を与え、それを完全なものとするか、という質問に戻ります。進化を通じてそれを伝え、一定の気づきのレベルに到達してそれが経験的知識となった人からあなたに与えられる知識、を通じて達成されるでしょう。

　　勿論、その知識を得ただけでは不十分です。それが実行されなければなりません。

知識それ自体はとても危険なものとなり得ます、個人のエゴを増長させる可能性があり、進化を抑制する要因となる以外にはいかなる目的にも役立ちません。

適切な瞑想、自己分析、自己省察、そしてサイコノエティカルなエクササイズを伴う必要があります。他人に奉仕するというエクササイズです。

実際、さらに多くの愛を表現すること以外に、より良いセルフによって私達は一体何を表現したいというのでしょうか？では、愛を誰に表現するのでしょう？勿論、愛を必要としている人に与えるのです。そして、無知、悪、意地悪と言われる人々以外に、誰が愛を必要としているでしょうか？

実際、良い人々は私達の愛を必要としていません。悪とみなされる人々こそ、彼らが無知から解放されるのを助けるために、私達はもっと愛で包む必要があるのです。

これは彼らの表現（＊行為）、彼等の病的な行動を受け入れるという意味ではありません。しかし、そのような病的な状態に苦しんでいる人間として、例え彼ら自身はそれに気づいていなくても、彼らは私達の愛を必要としているのです。無知に囲まれたセルフが自由になり、それ自身に魅せられたセルフが自由になって、愛の真の表現以外の何ものでもないインナーセルフが現れ出るようになるために、彼らは助けを必要としているのです。

真理の探求者は熱意をもって助け、そうするに当たって非常に注意深くある必要があります。間違ったアプローチをして否定的結果を招かないようにするためです。真理の探究者には基本的な動機として、同胞の人間を助けるという願望があります。真理の探究者は必要としている人々を愛、理解、忍耐で包みます。

時には、あなたは理解してもらうために彼らのレベルまで自分自身を下げる必要があります。

彼らがあなたの意味を理解し、従い、模範を見てそれを見習うために、あなたは同じ言葉を話す必要があるかもしれません。子供と同じように、人間はしばしば従うための模範を必要とします。その模範は達成可能なものでなければなりません。彼らの言動のどこが間違っているかを示すのではなく、正しい言動とは何かを示します。なぜなら、間違っていることを示すと、彼らの間違った言動にさらにエネルギーを注ぐことになるからです。特に他人の前で非難してはいけません。そのような行為を見たら、得点を得ようとしているという印象を相手に与えることなく、むしろあなたの本質の現れとして彼らに愛を示す必要があります。そのような時、あなたが示す模範が彼らに受け入れられ始め、恐らく真似されるようになるでしょう。

Page6

あなたは寛容でなければならず、いかなる形であれ我慢できない、あるいは彼らの行為が不快であるという気持を示してはなりません。そうできるようになるには、否定的な波動を発することのないよう、多大な強さが求められます。しかし、実践すれば、時間と共に成功するようになるでしょう。それが唯一の道であり、近道はありません。

同時に、彼らがあなたのレベルに到達していないからといって、彼らを見下すことのないよう、非常に注意する必要があります。人間は安心する必要があり、愛と思いやりに抱かれていると感じる必要があるのです。人間はその学歴や地位に関らず、誰かから、特にその見解と誠実性を尊敬し、高く評価しているような人から保証され、受け入れられることを求めているのです。多くの忍耐と働きが必要となります。何年も、時には生涯という時間がかかるかもしれません。しかし、私達が愛で包むのは主なる神、内側から現れるのを許されていない（＊神としての）パーソナリティーであることを覚えておかねばなりません。

イエス・キリストは弟子達に向かって、弟子達が空腹で、喉が渇き、孤独な彼を見ている時、彼らは主を無視していると語りました。弟子達は、主をそのように扱ったことは決してないと抗議したのですが、イエス・キリストは、弟子達はそのような多くの人々に出会っており、そのような人々は本当は主であると答えたのです。

ですから、神の意志によって生きている人は誰でも生まれた時の宗教が何であれ、神に奉仕しているのです。前に述べたように、私達がいわゆる悪あるいは善のいずれに奉仕しているのであれ、また私達が光あるいは闇のいずれに奉仕しているのであれ、私達は常に主なる神を使っているのです。最も重要なのは、いわゆる善あるいは悪と呼ばれるものの背後にある動機、特に善の背後にある動機です。

多くの人々、多くの組織、政府さえもが他のために良いことをしています。しかし、一見それがどれほど思いやりがあるように見えても、背後にある本当の動機はそれほど純粋ではありません。このことは特に国が関る場合、あるいは大義が掲げられる場合に明らかです。正義という名目の下で、平和という名目の下で、実際には建設的でなく、愛に基づいていないことが謀られています。同じことが、一見非常に高貴に見える人間の動機についても当てはまります。結果は祝福できるかもしれませんが、その行為の背後の動機は祝福できるほど高貴ではありません。そのような人にはプラスではなくマイナスの点が与えられます。

あなたはこのことを常に心に留めておかねばなりません。

私達は全員が、Lifeの現象界という舞台に立っている役者なのです。そして、役者が優秀であればある程、その背後にある動機を判断するのがそれだけ困難になるのです。

私達は常に主なる神、絶対、神の聖性に抱かれています。

EREVNA/GOOD22A/EN/AEN/ 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　22A/6END